

平成 27 年度 第 3 回富山県総合教育会議 議事録

1 日時 平成 28 年 2 月 10 日 (水) 10:00 ~ 11:10

2 場所 富山県庁 4 階大会議室

3 出席者 富山県知事 石井 隆一
富山県教育委員会
教育長 渋谷 克人
委員 山崎 弘一
委員 種部 恭子
委員 大谷 弓子
委員 米田 猛
委員 町野 利道

4 説明出席者 知事政策局長 山崎 康至
(事務局) 教育・スポーツ政策監 荒井 克博
理事・知事政策局次長 磯部 賢
教育次長 伍嶋 二美男
教育次長 川腰 善一
参事・教育企画課長 山下 康二
知事政策局課長 荻布 佳子
他 関係課職員等数名

5 議事
富山県教育大綱(仮称)〈案〉について

6 会議の要旨
司会が開会を宣し、石井知事の挨拶後、議事に入った。

(1) 事務局説明

荻布課長より、主に資料 1 にて、前回の会議後に開催したタウンミーティング及びパブリックコメントの結果を踏まえ、記述を修正した箇所等を中心に説明した。

(2) 協議

議長(知事)より、大綱(案)について意見を求めた。

<各委員発言要旨>

(町野委員)

- ・新規の取組みが多く盛り込まれていること、また、国全体が地方創生という方向に向かっている中であって、地方創生を基本の柱の一つに入れたことは非常に良いと思う。
- ・知事によるタウンミーティングを実施し、県民の方々の意見を聴き、また、有識者の方々の意見も聴いたうえで作成されたこの大綱案は、県民の声を反映した、非常にいいものに出来上がったのではないかと思う。

(渋谷教育長)

- ・学校現場や家庭教育など、本県教育の一層の充実を進める上で、良い方針を示していただいたと思っている。記載された施策については、今後、市町村教育委員会と協力しながら、学校、家庭、地域と連携し、しっかり進めていきたいと考えている。そのためにも、来年度は教育振興基本計画について、大綱の内容を反映したものになるよう改定することとしたい。

(石井知事)

- ・それでは、私の方からコメントさせていただく。これまで、有識者委員会で専門的、総合的な見地から様々なご意見をいただくとともに、タウンミーティングやパブリックコメントの実施を通じ、県民の皆さんのご意見を幅広く反映した大綱案になったと思う。
- ・大綱の理念、あるいは基本方針には、現在、地方創生が国全体の重要政策になっていることから、こうした観点も反映させ、これまで富山県が目指してきた人づくり、そして教育県富山の理念をしっかりと継承し、これからも真の意味の人間力を育む教育を推進していきたいと思っている。
- ・大綱の内容については、なるべく具体的に記載することにより、一般の県民の方々にとっても分かりやすいものになったと思う。
- ・本日のご意見、また県議会での議論を踏まえ、今年度中には大綱をまとめさせていただく。また、教育長から発言があったが、この大綱を受けて、今度は教育委員会の方で教育振興基本計画をぜひしっかりとしたものになるよう、よろしく願いたい。

- ・それでは次に、小学校3年生における新たな少人数学級選択制の導入について、前回、私から皆さんのご意見を伺ったところ、教育委員会としても必要であるという見解だった。その際、予算や人的な問題もあるので、具体的にどうするかを教育委員会でご検討いただきたいとお願いした。その検討結果について、教育委員会を代表して教育長から説明いただきたい。

(渋谷教育長)

- ・教育委員会では、この選択制の導入について、シミュレーションを行いながら検討を進めてきた。資料3をご覧ください。真ん中に導入のイメージを記載した。その右側、平成28年度見込みというところだが、来年度、小学校3年生で35人学級選択制の対象となる学級数、つまり児童が36人以上の学級数は64あり、学校数でいえば34校と見込まれる。ここに、少人数指導の加配教員の活用を柔軟に行うことにより、少人数指導、少人数学級のいずれかを選択できる制度を導入することは、予算面で支援をいただければ、来年度から実施は可能と考えている。
- ・小学校長会の意見としては、各学校それぞれ実情が異なるので、選択できる自由度があると良いということであり、市町村教育委員会にも意見を聞いたところ、学校の実情に応じて選択できる方が良いという意見であった。ぜひ来年度から導入できるよう、ご協力をお願いしたい。米田委員に補足を願います。

(米田委員)

- ・小学校3年生では、発達段階にはまだ個人差がある。よって、少人数学級となれば、一定の効果が現れると思う。一方で、集団の中で育む力も大事で、例えばお互いに切磋琢磨することや励まし合うこと、それから集団の中での多様性、いろいろな考え方を学ぶ、という意味では、そういう学級も長所があると思う。よって、それぞれの学校長の判断に基づいて、少人数指導、少人数学級、いずれかを選択できるようにすることは大変良いことだと考えており、ぜひこの制度が導入できるようになることを望んでいる。

(石井知事)

- ・新たな選択制の導入について、財政面での支援があれば、来年度からの実施も可能だという見解を伺った。小学校長会、市町村教育委員会にも相談されたということなので、今の話を受け止め、来年度の予算編成は大詰めの時期になっているが、それぞれの学校で実情に応じてより効果的な少人数教育を進めることは重要なことであり、小学校3年生における新たな選択制の導入については、予算面でもきちんと対応できるように検討していきたい。
- ・それでは、前回の会議では教育委員会の皆さんからいじめ対策、特別支援教育、英語教育について協議、要請があったところだが、予算編成が大詰めの時期になっている今、改めて教育委員会としてのご意見を伺いたい。

(町野委員)

- ・大綱案の11ページ、ものづくり人材の育成について、富山県はキャリア教育の一環として、中学校2年生で「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を実施している。高校でもインターンシップの体験率が高いほか、職業系の学校では

- ロボコンなど様々な競技会への参加や資格取得のための教育を進めており、
- ・芽が育つことを願っている。これからも意欲を持ってチャレンジしていってもらえるような取組みを教育委員会としても考えているので、地方創生の観点からも、将来の日本を、富山県を支える人材の育成に支援をいただければと思っている。
 - ・48 ページに記載の「富山マラソン」、昨年は大成功に終わり、これを毎年開催することになった。幅広い年代の人がスポーツに親しむ機会にもなったので、今年10月に開催される「富山マラソン2016」について、しっかり準備を進めていただきたい。私は体育と芸術は教育の根幹だと思っている。特に小学校、中学校の体育と芸術にぜひ力を入れていただきたい。
 - ・51 ページに記載のオリンピックの合宿誘致だが、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、海外選手団や日本チームの強化合宿を誘致することは、経済的効果もあるが、世界のトップアスリートを間近で子どもたちが見ることができることで、スポーツに対する意欲、関心、そして本県のスポーツ振興につながることを期待できる。なかなか難しいと思うが、ぜひ、積極的に誘致を進めていただければと思う。

(種部委員)

- ・私は以前からいじめの問題を取り上げ、今回、大綱案の中にも盛り込んでいただいた。これまでもスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが配置されてきたが、さらに拡充していただければ非常にありがたいと思っている。いじめに大きい、小さいはないと思っている。保護者の中にはきっと子どもの状況を日々心配している方もいらっしゃると思うので、小さいいじめだろうと、大きいいじめだろうと、学校の中で対応する能力を高めていくことが大事である。そうした意味でも、スクールカウンセラーは常時学校にいて、学校の組織の中に取り込んで仕事ができるように配置していただけるとありがたいと思っている。
- ・パブリックコメントの結果を拝見したが、勉強ができることはもちろん大事だが、やはり地方創生というか、地域を担っていく人材の育成を望む意見が多くあった。地域の中で、この富山県で働いてくれる人材を育てるという点で、町野委員が言われたキャリア教育は非常に大切だと思う。私が以前に発言し、大綱案に取り入れていただいたものとして、キャリアプランの教育、ライフプランの教育がある。ただ単に仕事をするだけでなく、家庭を持ち、地域に根差して生きていくためには、ぜひこうした教育に関しても拡充していただきたいと思う。全国学力・学習状況調査の結果を見たときに、将来の夢や目標を持っている子どもが富山県は少なくなっているのは、非常にショックを受けた。夢を持ったり、将来自分がどういう人生を描いていくのかについて、私は小さいときから系統的に取り組んでいくことが大事であると思い、昨年あたりから、まず高校生に対してラ

イフプラン教育を行っているが、ぜひ系統的に、包括的に進めていただければと思っている。

(米田委員)

- ・ 8 ページ以降の学力の育成について、教育委員会では平成 23 年度から小学生を中心に「ふるさと富山の人物ものがたり」の冊子の活用や、県立高校では県独自の補助教材、「ふるさと富山」を活用した郷土史、日本史の学習等のふるさと教育を進めている。一方で、富山の自然の分野についてもしっかり学ばせたいということで、新聞等でも既に報道があったように、「自然科学探究の分野の副読本」についても、ふるさと教育の一環として合致するものであり、ふるさと教育の理科版といえる。授業あるいは校外学習等で富山の豊かな自然に触れ、観察することを通して、探究する態度、科学する態度、そして考える力を育むことがこれからの教育に求められると思うので、ぜひ小学生向けの副読本の作成について支援をお願いしたい。グローバルな視点も大事だが、地元の富山をさらによく見つめることも非常に大事だと思うので、ぜひお願いしたい。
- ・ 50 ページに記載の体力向上の取組みについて、教育委員会では平成 26 年度から 2 年間、「楽しい体育実践研究授業」を実施しており、その検証結果がほぼまとまった。実践研究校 7 校で「体育の授業が好きになった」という割合が非常に高く、全国体力・運動能力等の調査結果も良好である。楽しく感じるのは運動ができるようになったとき以外に、外部指導者の指導のときという感想が上がっている。今後、小中学校の体育の授業において、専門的な指導力を持つ地域人材を活用した授業を実施していただけると良いと思う。現場の教員の負担軽減にもつながると思うので、ぜひお願いしたい。

(大谷委員)

- ・ 美術に関することを前回も発言したが、新しくできる美術館のネーミングが富山県美術館ということで案が決まったとのことで、県民の皆さんの期待もますます高まっていると思う。また、大綱案に対するパブリックコメントも拝見したが、非常に大きな期待があり、要望も多いのではないかと思う。現在のコレクションである質の高い素晴らしい作品の数々や世界に誇るポスター作品などを鑑賞することはもとより、子どもから大人まで、創造の場として活用できる、アトリエやギャラリーなどができるということで、私自身も大変期待している。この新しい美術館が、子どもたちにとって親しみやすい美術館となるよう、その魅力や具体的な取組みを学校の関係者や広く皆さんに PR していただきたい。美術館のデザインは、ハイセンスなデザインの要素が取り入れられ、屋上の遊具等や新しい企画展なども開催されるということで、大変素晴らしいと思う。
- ・ それから 42 ページに記載の「とやま世界こども舞台芸術祭」については、

これは4年に1度開催されているもので、今年が開催年に当たる。国際色豊かで、多彩な舞台芸術を富山から世界に発信するということで、富山県にとっても大きなイベントの一つだと思う。参加する子どもたちにとっては、国際的な視野を広げることにつながり、また、参加、鑑賞される県民にとっても、大変貴重な機会であり、今年の「とやま世界こども舞台芸術祭2016」に対しても支援をいただきたい。

(山崎委員)

- ・まず、特別支援教育の充実について、近年、発達障害などの特別な支援を要する児童生徒が大変増えている。こうした状況に対応する必要がある、今後、すべての教員が特別支援教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けることが重要だと思う。また、支援を必要とする子どもを見つける力を持って、適切に対応できるよう、教員研修の充実に取り組んでいくことが大事ではないかと思っている。前日も発言したが、特別支援教育については、小学校への入学、あるいは特別支援学校の小学部への入学など、就学に際しての支援、相談体制の充実が求められている。また、特別支援学校高等部や高等特別支援学校から卒業する際のきめ細かな就労支援、この体制も大変重要になっていると思うので、一層の充実を再度お願いしたい。
- ・次に英語教育について、前日も小学校において英語の教科化への対応ということで、専科教員の配置の充実をお願いしたところだが、大変効果が上がっている。来年度も英語専科教員の増員をぜひお願いしたい。
- ・12、13 ページに記載されているが、グローバル人材の育成について、社会や経済のグローバル化が進展する中で行っている英語の授業の充実、これは当然重要だが、特に高校において、将来、世界を舞台に活躍するような生徒を育成するために、実際に海外を経験させることが必要だと考えており、その点について支援をお願いしたい。また、グローバル人材の育成ということに関連して、県内の高校でも現在、海外の大学などに実際に行き研修を実施するといったことが行われている。生徒、保護者からの希望が多数あるとも聞いている。生徒の意識を高め、グローバル人材の育成には大変効果的であると考えられるので、この点についても支援をお願いしたい。

(渋谷教育長)

- ・私からは学力向上について、教育委員会では一昨日も学力向上推進会議を開催し、本県の児童生徒の学力の状況を分析、評価したうえで、学力向上の具体的な方策について協議した。これまでも、優れた学校の取組みを広く県内に周知するなど、学校や市町村教育委員会に対して、総合的に支援を行ってきたが、今後さらに支援を充実させていきたいと考えており、この点についても支援をお願いしたい。
- ・以上、各委員から教育委員会の重点施策等について意見を述べさせていた

だいた。今後とも、学校、家庭、地域と連携して、また市町村教育委員会と協力しながら、本県教育の発展にしっかりと取り組んでいきたいと考えているので、支援をお願いしたい。

(石井知事)

- ・各委員からそれぞれ、多岐にわたるご意見をいただいた。まず、町野委員からお話があったものづくり人材の育成について、これは「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」や機電工業会の「中学生ものづくり教育事業」など、経済界やPTAの皆さんをはじめ、様々な方々のご協力をいただいで実施しているものであり、感謝したい。ものづくり人材の育成については、中学校で多くの生徒さんに興味、関心を持ってもらって、さらに高校の段階で専門性を高めてもらうといったことが大事だと思っている。来年度予算では、高校でのこうした専門教育の充実について配慮したいと思っている。
- ・昨年11月1日に開催した「富山マラソン」は、私どもが期待していた以上に、非常に高い評価をいただいた。沿道の温かい応援や充実した給食なども大変好評であったが、当日、非常に天候が良かったこともあり、新湊大橋からの富山湾と立山の絶景が印象的で、また来たいという声を多くいただいたところであり、ぜひ今年も実施したいと思っている。富山マラソンが、県内はもちろん、全国の方々に楽しみにしてもらえるようにしていきたい。
- ・オリンピックの合宿の誘致については、既に昨年から、私自身も組織委員会に足を運び、協力を要請してきた。国では、参加国との相互交流を進めるということで、地域活性化等を見据えたホストタウン構想を打ち出しており、詳細が明らかになるのはリオオリンピックが終わってからになるようだが、今からいろいろと準備をして、市町村や競技団体とも協力して積極的に進めていきたい。
- ・種部委員からお話があったいじめ対策は、大変重要な懸案と思っており、この解決に向けては、学校や地域が一体となって取り組まなければならない。お子さんを人間として尊重して、社会全体で育てる、見守るということが大切。スクールソーシャルワーカーについては、今年度、派遣時間は6,020時間で、前年度と比べて大幅に拡大した。また、新たに県立高校に2人派遣することとしたが、来年度の予算においては、さらに拡充できないか検討したい。
- ・ライフプラン教育については、種部委員には産婦人科医の立場で、教育現場において特別に授業を実施していただいでおり、感謝申し上げる。大人になる準備を早い時期から意識するということが、お子さん自身の成長、また地域、地方創生という観点からも大事だと思っている。中学校段階からのライフプラン教育についても検討を進めたい。
- ・米田委員からお話があった、ふるさと富山の自然科学探究といったことに

については、ぜひやりたいと思っている。過去の全国調査によると、自然の中で遊んだこと、自然観察をしたことがあるかという問いに対し、富山県の子どもは全国平均より少ないという結果が出て、私はショックを受けた。その後、教育委員会で公民館親子ふるさと自然体験などといった活動を推進し、最近では全国を上回るようになった。昨年末に、ノーベル賞受賞者の田中さんと梶田さんとお話をする機会があり、子どもたちの科学に対する関心も高まっており、できれば富山の豊かな自然などを通じて、科学的な観点、視点を養うことができるような小学生向けの副読本を作りたいと思い、ぜひアドバイスをいただきたいとお願いしたところ、前向きに協力したいという返事をいただいている。

- ・体力向上というお話があったが、これも大事なことで、専門的な指導者が大切だというご意見があった。知徳体というが、体力向上は非常に大事だと思うので、こうした面での充実も図ってまいりたい。
- ・大谷委員からお話があった新近代美術館については、アトリエ、ギャラリーの活用や、デザインの面でも期待しているというお話をいただいた。20世紀美術の流れを展望する美術館というのが、最初に近代美術館を造ったときの理念、柱であった。こうした開設当時の理念はしっかり継承・発展させながら、同時に新しい時代の美術に対応するために、従来以上にデザインの視点を積極的に取り入れ、美術とデザインとの関係を見直し、両者をつなぐ場にしていきたいと思っている。日本では多くの場合、デザインという言葉は図案とか意匠という意味で使われてきたが、最近ではむしろ仕組みを作るとか、ある問題について思考や概念を組み立てて解答を作り出すプロセスといったような広い意味でデザインという言葉が使われるようになってきた。新しい美術館ではこうした幅広い意味でのデザイン関係の企画展を盛り込んで、従来のファインアートも大事にししながら、新しい表現、潮流を活かしていきたいと思う。
- ・また、お子さんたちをはじめ、幅広い世代が美術と触れ合う、鑑賞することももちろん有意義だが、できれば創造のきっかけづくりのようなことも考えて、アトリエなどを活用し、例えば親子で創造活動を行う。学校教育とも関係するが、子どもたちの感性や創造性を育む、そうした「人づくり」という観点からも取組みを進める、そういった美術館にしていきたいと思っている。教育に携わる学校の先生方等にも新しい美術館の考え方や運営の方向性について、なるべく早くお知らせし、学校教育との協力も進めていきたいと思っている。来月に子ども向けのワークショップ等を行う、PRイベントを開催することにしており、今後も、県内外へのPRに努めてまいりたい。
- ・それからとやま世界こども舞台芸術祭のお話もあったが、これもお話にあったとおり、非常に大切で、4年に1度、子どもたちにとっていい機会だ

と思っており、ぜひ支援していきたい。

- ・山崎委員からお話があった特別支援教育について、今年度から小中学校の全教員に、11年目の教職員研修で特別支援学校の体験研修を実施しているほか、新たに高校にも巡回指導員を2名配置している。教育委員会では今年度、特別支援教育推進協議会を設置され、乳幼児期から成人期まで切れ目なく支援していく方策について協議されている。来年度予算では、ご意見にあった就労支援といったことも含め、充実できないか検討したい。
- ・英語教育については、小学校英語専科教員を今年度4名から20名に増やして、その効果はかなり大きいと聞いている。拡充に関し、来年度予算においてさらに検討したい。
- ・グローバル人材の育成については、高校生にとって海外の大学で様々な国の学生と交流することは、大変良い刺激になると思う。これまで以上に支援できないか、検討したい。
- ・最後に、教育長から学力向上の話があった。これは大変重要な、基本的なことであり、皆さんの今までの努力で教育県富山という良き伝統が引き継がれていると思う。これをさらにしっかり発展させていき、また時代の変化に対応していくことも大事であり、そうしたことを踏まえ、来年度予算を編成したい。
- ・以上で本日の議事は終了した。今日の会議の検討結果をまとめると、まず大綱案については、ご了解をいただいた。法律において、大綱は総合教育会議での協議を経て、地方公共団体の長が定めると規定されており、来年度予算や県議会での議論も踏まえ、年度内に策定することとする。また、少人数教育に関することを含め、改めて教育委員会の皆さんからご意見を伺った。来年度の予算編成も最終段階にきているが、今ほど皆さんからいただいたご意見をしっかり踏まえ、できるだけ生かしていく方向で検討していきたい。

7 閉会

11時10分、議事が終了したので、知事が閉会を宣した。